

株式会社神崎組

安全・品質・堅実

建設業を通して、防災・減災或いはインフラ等機能強化を目的とした社会資本整備と企業様の経済活動をお支えして参りました。(株)神崎組は、創業102年、当社の生みの親は、鉄道と陸軍でございました。そして育ての親といえば、地域の皆様に他なりません。地域とお客様の為に、神崎組のサービスを更に進化させて参ります。

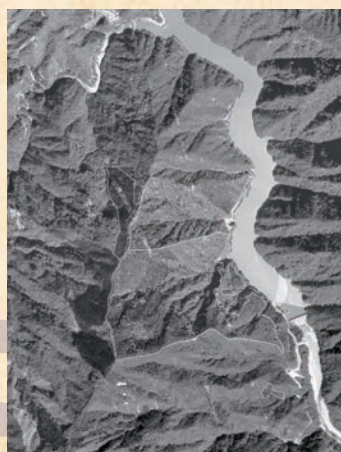
商号	株式会社神崎組
本社	〒670-0935 兵庫県姫路市北条口3-22
創業年	1919年(大正8年)6月
設立年	1943年(昭和18年)11月
資本金	5億円
従業員数	123名 ※2021年5月31日現在
事業内容	建築工事、土木工事の設計・請負及び監理を中心とした総合建設業及び不動産賃貸業、森林資源管理



山陽新幹線高架橋工事(昭和45年)



姫路城 平成の大修理工事(平成27年)



社有林正射写真図(宮崎県木城町)

創業、そして姫路城へ

当社の歴史は、その基礎を築いた一人の棟梁の活躍に始まります。1889(明治22)年に香寺町で生まれた神崎文次は、難工事といわれた山陰本線餘部鉄橋の組立作業に従事します。その後、鉄道と軍需関係の取引を拡大し、神崎組を創業しました。

創業後間もなく、当社は、陸軍省から姫路城の修理工事を請け負います。明治の大修理で修繕が施されなかった西の丸にある化粧櫓と各渡櫓などに関する大工工事と屋根工事でした。金額にして約3万円、1919(大正8)年8月のことです。この工事が、当社が初めて携わった姫路城の修理工事であり、また、創業後初めて受注した工事でもありました。これ以降、昭和の大修理、平成の大修理へと、姫路城と一世紀に及ぶ関係を紡いでいます。

上下和衷協力と創業者精神

上下和衷協力とは、神崎文次が唱えた社員の行動規範であり、その思いを社章で表現しています。当社の社章は、菱形の枠内に上下の文字が刻まれております。菱形の枠は組織を、上下とは上司と部下、先輩と後輩などヒエラルキーを指しており、上下関係の垣根を超えて互いに協力を惜しまず、心をつなぐことで職務を遂行する、そうすれば、結果は自ずとついてくるという意味が込められております。

さらに神崎文次は、「建設業は、他人様のお金で他人様のものを造らせて頂いて、それで儲けさせて頂いている。だから、ワシらの家業は、ぜいたくなんぞしちゃいかん。」との言葉を遺しています。

この質素儉約と上下和衷協力の精神は、現在も組織に深く浸透しており、当社のサービスの源でございます。

人を守り、森を守る

現在の建設現場は、ドローンやICT(情報通信技術)施工、BIM/CIM(3次元)施工の出現により、省人化、省力化を実現し、就業環境が大きく向上しております。当社もこれらの技術を採用し、安全で快適な職場づくりに努めております。新しい技術を利用するのは、今も昔も同じ、「人」です。神崎組としての誇りを持ちながら、時代やお客様のニーズに柔軟に対応できる「人」を育てることこそ、これからの100年も変わらない、大切なことと考えております。

また、当社は約71万坪の森林を所有しており、国と森林組合、当社との間で協定を締結し、水源を涵養するための森林の造成と維持管理に努めるなど、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた取り組みを行っております。

これからも、人と環境を育み、守る活動を通じて、次世代に邁進して参りたいと考えております。



姫路文化コンベンションセンター
アクリエひめじ

since

1919